



今回の紙面

地域医療最前線NO.38 《^{かじの やすひさ}楳野恭久先生》
研修医のページNO.22 《^{みやもとたくみ}宮本匠先生》
自治医科大学訪問

若手医師ステップアップ研修会のお知らせ

看護師さんのページNO.18 《^{いまわかいくほ}今若穂さん》
島根大学「地域医療支援学講座」NO.1
しまね地域医療の会

医学生向け奨学金・研修医向け貸与資金制度



島根県保健医療計画（大田圏域版）
に示されていますように、大田医療
圏域の基幹病院として、主に二次救
急医療、周産期医療、リハビリテー

大田市の中央部に位置し、国立公園三
瓶山と石見銀山で代表される自然と
歴史のロマンにあふれる大田市にあ
ります。大田二次医療圏の中核病院
としての役割を果たすべく、平成11
年2月1日に、国から大田市へ経営
移譲され、国立大田病院から病床数
339床の大田市立病院となりました。
開院以来、地域の皆様の生命と
健康を守るため、職員一丸となり、
良質な医療サービスの提供を目指し
努力してまいりました。この間、主
な医療機器として、64列マルチスラ
イスCT、RI、MRI、血管造影
装置等を整備するほか、平成19年に
は電子カルテを導入し、医療機能及
び患者サービスの向上に努めてまい
りました。



大田市立病院
院長 楳野恭久



NO.38

シオン医療、透析医療などを提供し、
4 疾病（がん・脳卒中・急性心筋梗
塞・糖尿病）制圧および5 事業（小児
医療・周産
期医療・救
急医療・災
害医療・地
域医療）、
その他（終
末期医療
を含む在
宅医療の
支援）の遂
行を目標に掲げています。また、平
成16年度より、基幹型（管理型）臨
床研修指定病院として指定を受け、
これまで10名の研修医を受け入れ、
若手医師の育成にも積極的に取り組
んできたところです。

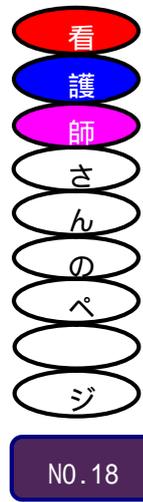


大田市立病院全景

全国いたるところで医師不足が深
刻な問題となっていますが、その中
でも特に、地域医療を担う医療機関
の医師不足は深刻です。このような
中、当院でも平成22年4月1日より
外科及び整形外科の常勤医師が不在
となり、やむなく、救急医療機関と
しての指定を取り下げざるを得ない
ことになり、地域住民の皆様にはこ
迷惑・ご心配をおかけしています。
地域住民の危機感から、住民が一丸
となつてこの病院を守る、医師を守
るという意識が急速に芽生え、住民
主導の地域医療支援協議会が立ち上
がるなど、既にいろいろな動きが具
体的に出てきています。医師にとつ
て働きやすい病院に生まれ変わらう
としています。島根県では、今年度
より地域医療再生計画事業を制度化
し、県内の医師確保、看護師確保を
目玉に、地域医療の基盤整備を始め
ています。当院も、多様なメニュー
の中から、該当するものを取捨選択
し、事業着手に向け取り組んでおり
ます。

地域から医師・看護師を輩出し、
育てていくことが、一番の「近道」
かもしれませんが、「魅力ある病院づ
くり」、「地域だからこそやってみよ
う」という医療人を育てる努力も大
切だと思います。今年も、島根大学医
学部医学科6年の学生さんの多くが、
地域医療病院実習の実習先として当
院を選んでくれています。実習の5
日間に、大学では学べない地域医療
の実態とプライマリ・ケアの重要性
を学んでいただき、将来一人でも多
くの学生さんが、「島根県・石見部・
大田市」で働いてくれますように、
微力ながら、島根の医師ならびに新
病院長として、これからの医療人の

育成に携わっていきたくと思っています。



独立行政法人国立病院機構 浜田医療センター

副看護師長 今若育穂

2009年11月に独立行政法人国立病院機構浜田医療センターは新築・移転しました。

新病院は2階部分がJR浜田駅と自由通路でつながり、非常に交通の便が良くなりました。また、成人病予防センターと合築し、健診機能も充実しています。新病院は、南6階、北5階の2棟建てとなっています。1階部分には、各科外来と健診センター、救命救急センターがあります。1階から6階まで全ての病棟、外来部分の廊下には絨毯が敷かれており、看護師の足音や台車の音が聞こえにくくなっています。廊下の幅も広く、病室は窓が大きく外光が入り、とても明るくなりました。南側建物の6階部分は、緩和ケア病棟となっており、ペランダには花壇があり、患者様の憩いの場となっています。

私事ではありますが、2008年に皮膚・排泄ケア認定看護師の資格を取り、ストーマ外来を開き1年半が過ぎました。新病院では、外来と診療科の病棟が同じ3階となっていることもあり、直ぐに外来に行くこともでき、とても働きやすい職場になっています。今年度、当院では救急看護、感染管理、緩和ケアの認定看護師研修を修了し、専門的知識を持った看護師が増えていきます。現在も認定看護師養成過程を受講している看護師が5名います。病院全体で、より専門的な看護ケアを提供できるよつになつてきています。



浜田医療センターの新病院全景

島根県は全国的に見ても、医師・看護師が不足しており、決して医療環境が良いとは言えない状況があります。しかし、そのような中でも、患者様には安心して入院生活を過ごしていただける環境を提供しなければいけないと思っています。入院生活の中で、患者様と接する時間がど

の医療関係者よりも多いのは看護師です。その看護という場の中で、患者様一人ひとりに合った専門的な看護を提供できるように、看護部全体で頑張っていこうと思っています。皆様、ぜひ新しくなった浜田医療センターを見学に行らせてください。



NO.22

県立中央病院

2年目研修医

宮本 匠



初期臨床研修を始めて1年3カ月が経ちました。今でも、分からないこと、勉強すべきことは山ほどある訳ですが、去年よりは幾分成長できたかなと実感しております。

私は大阪で生まれ、京都で育ち、名古屋市立大学に行きました。そして平成21年4月より、島根県立中央病院（以後、県中と略）で初期臨床研修医として、島根に初めて来ました。このように、私は島根と縁もゆかりもありません。

大学時代の同級生は8割近くが愛知県を始めとした東海地方出身です。東海地方出身の人は都会志向が強い人が

多いです。若者は車や電車で1時間以内に都会に行ける範囲での生活を好みます。よって必然的に、名古屋近辺の病院、もしくは東京など都会の病院での研修に人気が集まります。他地方出身も、母校の医局にそのまま入れば将来の進路もある程度安定だという理由で名古屋に残る人が多いです。私は他の人と同じことをするのは面白くない、周りの人がやりたがらないことをしようと思いい、地方の病院を探しました。いくつか見学に行きましたが、県中に見学に来た際に、ここにしようという直感が働きました。病院だけでなく、島根自体も好きになりました。都会のように人が多くありませんし、魚はおいしいし、田んぼも広がっているし、私にとつてとても居心地のいい所です。

県中での研修はとても魅力的です。特に救急外来は風邪などの軽症から多発外傷のような重症まで、色々な患者さんに接することができます。都会では大きな病院が多く、経験できる症例に偏りができやすいと聞きます。そんな心配は県中ではいりません。その救急外来での初療は研修医が行います。もちろん上級医の先生のバックアップがあるからこそですが、自分達が戦力になっていると実感できます。他の病院、都会の人気病院で研修するより絶

対にいい研修ができる環境だと自信を持って言えます。あとはこの環境を生かすも生かさないも自分の努力次第です。これからも精一杯、この環境を利用して、来年からは外科医の卵として島根で精進していくつもりです。

島根県は研修医不足が深刻です。島根県出身の医学生も少ない状況です。他県出身の島大の学生に島根に残る環境、また島根と無関係でも島根で研修がしたいと思える学生が増える環境作りにおいて、私たち県中の研修医も力になれればと思っております。これからも皆様のご指導、ご協力を宜しくお願い致します。

【新連載】

島根大学
「地域医療支援学講座」
【NO.1】

地域医療支援学講座の開設にあたって

島根大学「地域医療支援学講座」

教授 谷口 栄作

地域医療支援学講座は、平成22年4月に県の寄附により開設されました。当講座は、地域医療教育学講座、卒後臨床研修センター、各診療科等の学内組織、そして県や市町村、地域医療機関等学外の関係機関と連携

を図りながら、「地域医療に興味を持ち、地域医療へのモチベーションを膨らませながら、医師としてのキャリアアップと県内の医療機関で安心して働ける環境づくりを支援する」ことを目的としておりま

す。そしてその実践の中でそれぞれの地域の医療システムのあるべき姿、またそこに至るプロセスについて研究したいと考えています。



左から、狩野講師、谷口教授、

吉岡講師、布野助教

にも取り組んでいきます。まだまだ走り出したところですが、徐々に取り組みを充実していきたいと考えています。今後様々なご協力をいただきますとともに、ご多し御意見を聞かせてください。

自治医科大学訪問

6月3日(木)、担当課長会議のため自治医科大学を訪れました。この会議に先立ち、島根県出身の在学生会と我々県担当者との交流会がありました。交流会には県出身の男子6名、女子8名の14名の学生が集まってくれ、また、卒後指導委員として島根県を担当して下さっている河野正樹准教授も参加してくださいました。

学生からは、勉学やサークル活動に一生懸命取り組みながら、充実した学生生活を送っている様子を聞かせてもらいました。「島根は医師不足が深刻なので、何とか貢献したい」など、将来ビジョンを持ちながら、島根の地域医療への貢献を具体的に考えてくれている姿を見て心強く思いました。

自治医科大学では、それぞれの学

生に対する生活面も含めたきめ細かな相談や指導体制が充実しており、郷里を離れて寮生活を送る学生にとっても恵まれた環境であると思えます。例年開催している医学部進学説明会を今年も8月に計画しています。彼らにはこの説明会で、将来の後輩たちに、学生生活について先輩としての声を届けてもらう予定です。これからも大いに勉学や部活に励んでもらい、卒業後は島根の地域医療の現場で活躍してくれることを期待しています。

【医療政策課 仲佐】

しまね地域医療の会

しまね地域医療の会は、県内の地域医療機関に勤務いただいている医師が相互に意見交換する場です。年に2回開催しており、今年度第一回目の会を、平成22年6月5日(土)に出雲医師会館にて隠岐病院とテレビ会議で繋ぎ開催しました。自治医科大学卒業医師、県外から赴任いただいた医師、島根県の医学生向け奨学金を受給された医師等4名の新会員の加入があり、会員数は81名となりました。今回は、県が島根大学医

学部を設置した地域医療支援学講座の谷口教授を招き、47名の参加により開催しました。

島根県病院事業管理者・島根県参与である中川会長から、地域医療再生基金の有効活用についてと、5月に全国自治体病院協議会の副会長に就任され、これまで以上に地域医療の確保に頑張っていきたいとのあいさつをいただきました。

続いて谷口教授から、地域医療支援学講座では、地域卒の入学者等に地域医療の魅力を伝え、個々のキャリアパスづくりを支援していくことについての説明をいただきました。

また、県内各地区から活動報告をいただきました。意見交換の中では、県西部の厳しい医療状況について早急な対応が必要であるとのご意見や、今いる医師を「守る」施策の強化が必要とのご意見をいただきました。

会の最後に中川会長から、地域だけで頑張っても限界があるので全国自治体病院協議会副会長の立場で国に現状を伝えていきたいとの考えを話されました。

後の懇親会には、より一層親密な情報交換が行われました。

【医療政策課 福屋】

**若手医師ステップアップ研修会の
お知らせ（島根大学主催）**

〔対象〕 医学生、初期・後期臨床研修医、指導医等

〔日時〕 平成22年8月28日（土）
13時30分～

〔会場〕 ニューウェルシティ出雲
出雲市塩冶有原町2丁目16番地

〔内容〕 地域で活躍している先生を講師に地域医療についての講演会、研修医のスキルアップ勉強会

〔お問い合わせ〕

島根大学医学部附属病院

卒後臨床研修センター

TEL・0853-20-2006

新規奨学金・貸付金制度創設！

島根県では、医師が不足する診療科の医師や地域で勤務して頂く医師を養成するため、これまで実施している医学生向けの奨学金に加え今年度新たに奨学金・貸付金制度を創設しました。

これらの奨学金・貸付金により、学業や研修の充実を図っていただければと思います。

〔制度概要〕

名称	特定診療科医師緊急養成奨学金	研修医研修支援資金	
		初期臨床医	後期研修医
募集期間	平成22年度から平成25年度	平成22年度から平成24年度	平成22年度から平成25年度
対象	全国の大学医学部在学の1年生～6年生（自治医科大学を除く）	将来、県内医療機関で後期研修を受けようとする全国の1年目の臨床研修医	将来、県内特定医療機関（過疎地域に所在）において、勤務しようとする全国の後期研修医
募集枠	各年度5人程度	各年度15人程度	各年度10人程度
貸与回数	連続する2年間で上限2回	連続する2年間で2回	連続する3年間で上限3回
貸与額	1回につき3,000千円 (2回で6,000千円)	1回につき1,500千円 (2回で3,000千円)	1回につき3,000千円 (3回で9,000千円)
返還免除義務	5年 (臨床研修2年+特定診療科勤務3年)	3年 (指定医療機関で後期研修3年)	貸与回数に対応する年数 (3回貸与は3年勤務)
義務対象機関	島根県内の ・公的医療機関 ・地域医療拠点病院 ・臨床研修病院 等	島根県内の ・公的医療機関 ・地域医療拠点病院 ・臨床研修病院 等	島根県内の過疎地域に所在する ・公的医療機関 ・地域医療拠点病院 等

注1) これまでに島根県の実施する医学生向けの奨学金の貸与を受けたことのある方は、上記の奨学金及び貸付金の貸与を受けることができません。
注2) 上記の奨学金及び貸付金については、それぞれを重複しての貸与を受けることはできません。

制度詳細や募集については左記までお問い合わせください。

〔お問い合わせ〕

島根県医療政策課医師確保対策室
担当：岩田

TEL・0852-22-6684

島根県で勤務していただける方を紹介してください

友人・知人等に島根県での勤務を希望される医師がおられましたら、是非ご紹介ください。ご紹介いただいた医師へは、医療機関の情報等を提供し、県内での勤務を支援します。

医師募集・地域医療ツアー参加者募集

島根県は県内で勤務いただける医師を求めています。全国どこへでも専任の医師が出張し、具体的な相談に応じます。また、地域医療の視察ツアーを実施しています。旅費は県が負担します。お気軽にお問い合わせください。

「赤ひげバンク」の登録者のみなさんへ

住所等に変更があった場合は、メールでお知らせ願います。

携帯からの問い合わせはこちら

〒690-8501 松江市殿町1番地 島根県健康福祉部 医療政策課 医師確保対策室

TEL 0852-22-6683 FAX 0852-22-6040

E-Mail iryu@pref.shimane.lg.jp

ホームページ：

島根の医師確保対策

検索

